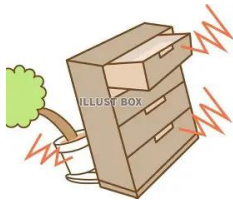


運転中に大地震が発生したら

日本は地震大国と言われていますよね。実際に、2025 年中には震度 5 弱以上の地震が 15 回（余震も含む）も発生しました。



気象庁によると震度 5 弱というゆれの状況は、次のとおりです。



- ・大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる
- ・棚にある食器類や本が落ちることがある
- ・固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある

屋内でも揺れを感じる人と感じない人がいる程度の震度だと、車を運転している場合は揺れを感じないことがほとんどです。運転中に揺れを感じるには震度 3 以上の場合と言われています。震度 3 では運転に支障をきたすほどではありませんが、震度 4 以上になると運転中にも強い揺れを感じることがあります。震度が 4 や 5 になると、特に高速道路や山道などの場所では車の揺れを実感し、運転者が直ちに車を停めることを考える状況となります。



◎大地震が発生したときに運転者がとるべき措置（警察庁）

- ・急ハンドル、急ブレーキを避けるなど、できるだけ安全な方法により道路の左側に停止させること
- ・停止後は、カーラジオ等により地震情報や交通情報を聞き、その情報や周囲の状況に応じて行動すること
- ・引き続き車を運転するときは、道路の損壊、信号機の作動停止、道路上の障害物などに十分注意すること
- ・車を置いて避難するときは、道路外の場所に移動しておくこと。やむを得ず道路上において避難するときは、道路の左側に寄せて駐車し、エンジンを止め、エンジンキーは付けたままとするか運転席などの車内の分かりやすい場所に置いておくこととし、窓を閉め、ドアはロックしないこと。駐車するときは、避難する人の通行や災害応急対策の実施の妨げとなるような場所には駐車しないこと



豆知識

気象庁が発表する震度は、平成 8 年に震度計で震度を観測する体制に移行するまでは、気象庁職員の体感や、まわりで発生した被害の様子から決めていたそうです。地震時でも冷静に対応されていたのですね。



緊急地震速報が鳴ると慌ててしまいがちですが、まずは身の安全の確保と、日頃の備えが大切です。

